

1. 調査目的等

小学校2年生から6年生の児童の学力を把握・分析し、学校における教育指導の成果と課題の検証やその改善に役立てる。

2. 学校ごとの指標

- ・学校の標準偏差値が前年度比プラス1ポイント以上にする。
- ・アンダー・アチーバーの児童(0名)
- ・学力5段階評定1, 2の児童(0名)

3. 指標にむけての取組

- ・市販の単元テストの結果をもとにした補充を行い、スピーディに課題を解決する。
- ・学校で統一した家庭学習の内容(宿題+自学+明日の準備)を決め、家庭学習習慣の定着を図る。
- ・補充学習では、算数問題集「アイテム」を活用し、既習内容を確実に終わらせる。

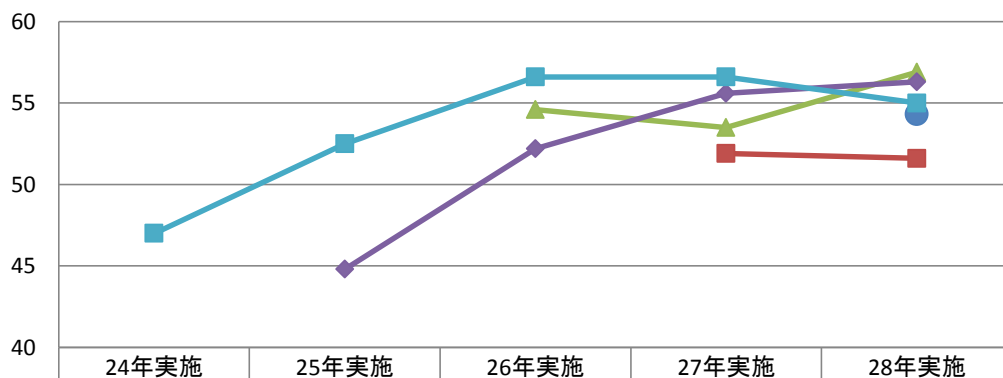
4. 調査結果

※学校平均5年間の推移

(標準偏差値50に対して)

年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
本校(A)	49.6	47.9	54.2	54.9	55.0
嘉麻市(B)	48.6	49.8	50.0	50.8	50.7
(A)－(B)	1.0	-1.9	4.2	4.1	4.3
標準偏差値との差 (A)－(C)	-0.4	-2.1	4.2	4.9	5.0

各学年の推移



● 現2年生					54.3
■ 現3年生				51.9	51.6
▲ 現4年生			54.6	53.5	56.9
◆ 現5年生		44.8	52.2	55.6	56.3
■ 現6年生	47.0	52.5	56.6	56.6	55.0

5. 各学校における分析

- ・学校標準偏差値が前年度より0.1ポイント上回ったが、目標値である1ポイント上回ることができなかった。
- ・アンダーアチーバーの児童が2名、評定1, 2の児童が国語では13名、算数では3名いた。
- ・学校全体としての顕著な課題は見られなかったが、学年別に見ると、領域において課題が見られた。

6. 各学校における今後の取組

- ・アンダーアチーバーや評定1, 2の児童のフォローアップのために、算数科の分割授業、補充学習等の複数指導を行う。
- ・モジュール学習(スイッチオンタイム)の充実を図る。(百ます計算、文章読解)
- ・宿題に補充問題集アシストシートを出し、学期始めに診断テストを実施する。
- ・土曜未来塾と連携し、補充学習を充実させる。
- ・放課後学習を活用し、下学年の基礎・基本の定着を図る。

7. 嘉麻市教育委員会としての今後の取組

- ◆ 嘉麻市学力向上プランに設定した「学力補充」を推進する。そのために、以下の事項について支援する。
 - ・全職員による補充の時間を充実させるための教材の選定や指導方法について指導助言する。
 - ・学習サポーターを配置した「嘉麻市土曜未来塾」を年間40日程度開塾することで、基礎基本の定着の強化と家庭学習の習慣化を図る。
 - ・長期休業中及び放課後等における補充学習、個に応じた学習を支援する。